

# 山城地域振興計画（中間案）の概要

※主な改正内容を抜粋しています。

## 1 地域の将来像（20年後に実現したい姿）

個性豊かなそれぞれのエリアが魅力を輝かせ、つながり、更に発展する山城地域

- 未来に夢が持て、末永く住み、働き、事業を営み続けることができる地域
- 互いに認め合い、大切にし合う交流と絆で結ばれた地域
- 豊かな自然環境、歴史、文化が生み出す創造と活力に満ちあふれる地域

## 2 施策の基本方向

### ◆ 新型コロナウイルス感染症対策の視点を追加

#### (1) 新名神の全線開通を見据え、それぞれのエリア特性に応じた地域づくりの推進

- 新名神の全線開通（令和9年に延長）に向け、必要な整備の推進を拡充
- 移住者が活躍できる地域づくりを通じて地域創生を推進
  - ・新名神の全線開通や犬打峠トンネル（仮称）の開通を生かして、人流・物流・産業の拠点づくりや関連公共インフラの整備を進める。
  - ・道路整備、鉄道ネットワークの充実、都市基盤整備、公共インフラ整備等の項目を整理・木津川右岸地域及び京都市近郊の都市エリアにおいて将来交通の研究を実施
  - ・科学技術と文化学術が融合した体験型イベントを一体的に実施し、暮らしの中で文化・学術・研究の成果を感じられる機会を創出
  - ・けいはんな学研都市においては、海外企業やフードテック関連企業を含め新たな研究機関・企業を誘致し国内外のスタートアップ企業の集積を促進
  - ・コロナ禍を契機に体験型観光が注目される中、体験交流ができるイベント体験民泊や地域のメリットを生かした様々な「泊」のスタイルの拡充
  - ・移住者等が住民とともに地域社会の担い手として活躍できる地域づくりを推進
  - ・「宇治茶」をキーワードに山城地域全体に効果が波及するような取組を実施
  - ・近年多発化する豪雨災害の対策として、いろは呑龍トンネルの整備や河川護岸等の計画的な更新による防災性能の確保を推進

#### (2) 暮らしを支え、災害に強い持続可能な安心・安全の基盤づくり

- 新型コロナ感染症の対応を踏まえ、新たな感染症対策への備えを拡充
- 集中豪雨など自然災害の激甚化・頻発化に対する災害対応力の強化
  - ・木津川や宇治川の堤防補強や河道掘削等を国と連携して促進
  - ・防災重点ため池におけるハザードマップの活用や京都府農業用ため池管理保全サポート協議会と連携し、ため池管理者の保全管理活動等を支援
  - ・道の駅「お茶の京都みなみやましろ村」を広域的な応急活動の防災拠点として利用する取組を実施
  - ・二次医療圏（京都乙訓・山城北・山城南）において大規模災害時の保健・医療・福祉の情報ニーズの調整を行う保健医療福祉調整支部の体制強化
  - ・要配慮者への支援の充実を図るため、要配慮者ごとの「個別避難計画」の作成に向け市町村への適切な助言を行うとともに、研修会の開催等により支援
  - ・タイムラインの作成・改良を通じて、住民の避難行動を促進し、地域の防災リーダーを育成

- ・新たな感染症への対応強化として、地域の実情を踏まえた病床確保に係る連携強化とともに保健所の業務ルーチンや応援体制構築による体制強化
- ・自宅療養者の災害時の避難に係る市町村との連携を強化

### (3) 子育てや長寿の安心を確保し、人権が尊重され、誰もが生き生きと暮らせる共生社会の実現

- 人口減少・少子高齢化が続く中、子育て環境日本一の実現を目指す。
- 新たな人権侵害に係る課題等に対応した取組の拡充
- コロナ禍で希薄化した地域の絆の強化
  - ・地域子育て環境「見える化」ツールを活用した市町村の子育てを支援
  - ・「WEラブ赤ちゃんプロジェクト」の取組やきょうと子育て応援パスポートアプリ「まもっふ」の普及を通じて、子育てにやさしい地域づくりを推進
  - ・保育の質、教育の質、保育士のスキル向上を図る職員研修の実施等に係る記載を追加
  - ・やましろ未来っ子育て支援会議の活動を通じて、地域全体で子育てしやすいまちづくりを推進
  - ・インターネット上での人権侵害や新型コロナウイルス感染症に関する誹謗中傷など新たな人権侵害に係る課題に対応した取組を実施
  - ・「地域と共に歩む学校」を教育理念とする府立井手やまぶき支援学校において、共生社会の担い手となることを目指した取組を進める。
  - ・農業・福祉・商工関係者による耕作放棄地の解消や障害者雇用につながる地域特産物の生産・加工等の取組を推進
  - ・現在の国の礎となった恭仁宮跡の特別史跡化や魅力の掘り起こしを行い、活用整備を促進
  - ・コロナ禍により希薄化した地域の絆の再構築のため「地域交響プロジェクト」等により地域の課題解決に向けた住民主体の活動の支援を一層強化

### (4) やましろ産業を地域の未来を支える柱へとパワーアップ

- 原油価格や物価高騰などに直面する事業者への支援を拡充
- コロナ禍において減少した観光需要に対する対策を強化
  - ・文化・芸術の力を生かし、アートとテクノロジーを融合させた新たな産業を創造し、起業を促すと共に次世代を担う起業家等の人材育成を進める。
  - ・地域の食文化を体現する内食・中食需要に対応した商品作りをはじめ、地域資源やフードテック等の技術を生かし付加価値の高い特産品の開発の推進や、生産から販売までのサプライチェーンを構築
  - ・経営人材育成塾「YMBA 勉強会」による経営力向上など若者にとって将来に夢と希望が持てるやましろ企業の魅力づくりを支援
  - ・省エネと荒茶製造の効率化・高品質化に対応し、機械の能力や生葉の状態に合わせた適切な製茶技術を速やかに現地へ普及・拡大させる取組を強化
  - ・地域の食の拠点となる食の京都 TABLE を整備し、いちおし食材の発掘を行うことにより観光客が食を目的に府内を周遊する食の観光に取り組む。
  - ・「京都府府内産木材の利用等の促進に関する条例」を踏まえ、川上から川下までの連携の山城産木材の新たなサプライチェーンの構築に取り組む。

## 4 広域連携プロジェクト(エリア版)

- 京都府南部イノベーションベルト広域連携プロジェクト
- グレーターけいはんな広域連携プロジェクト